

分野別評価について

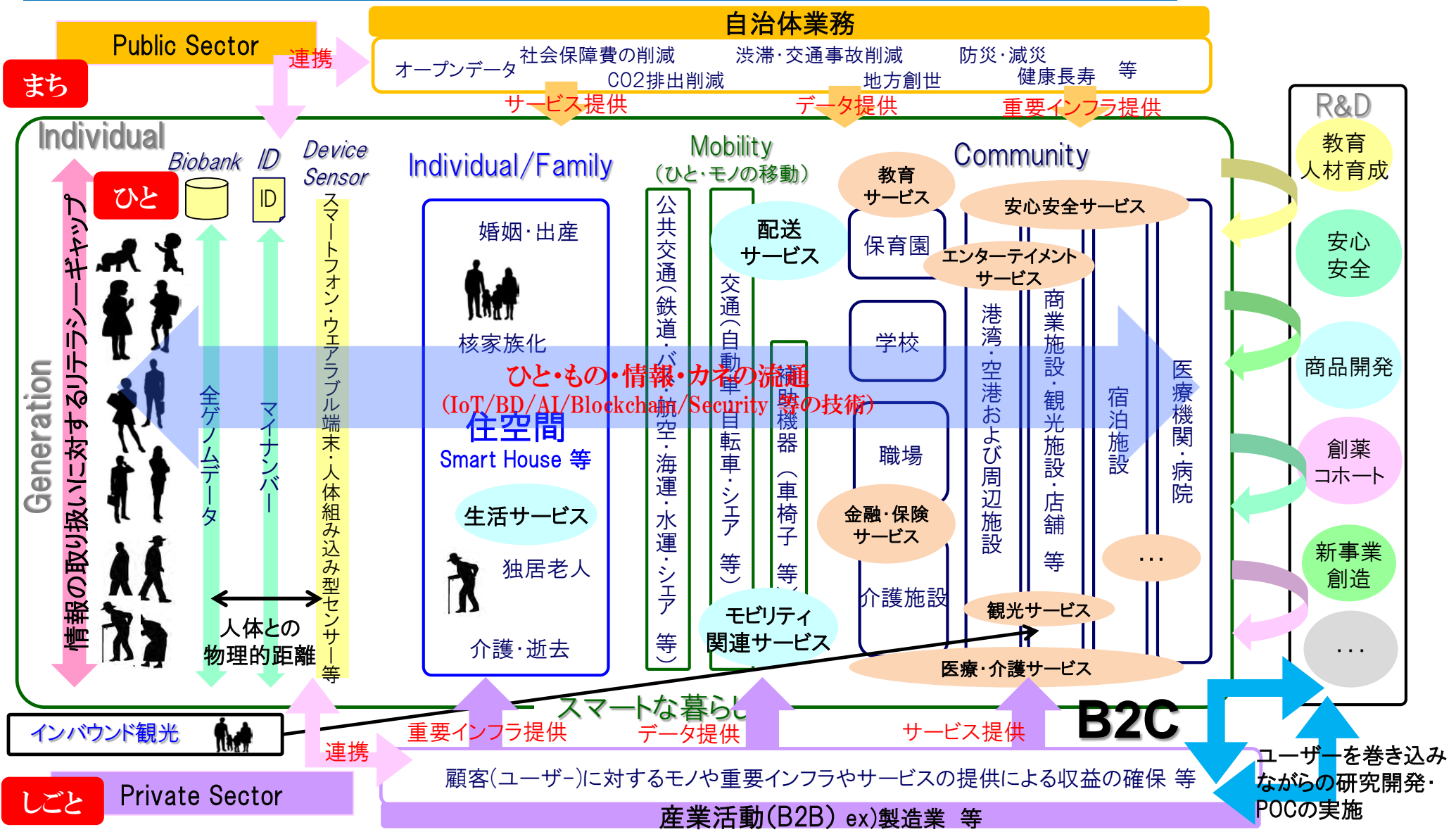
- 分野の区分 -

平成29年2月20日

AIネットワーク社会推進会議
事務局

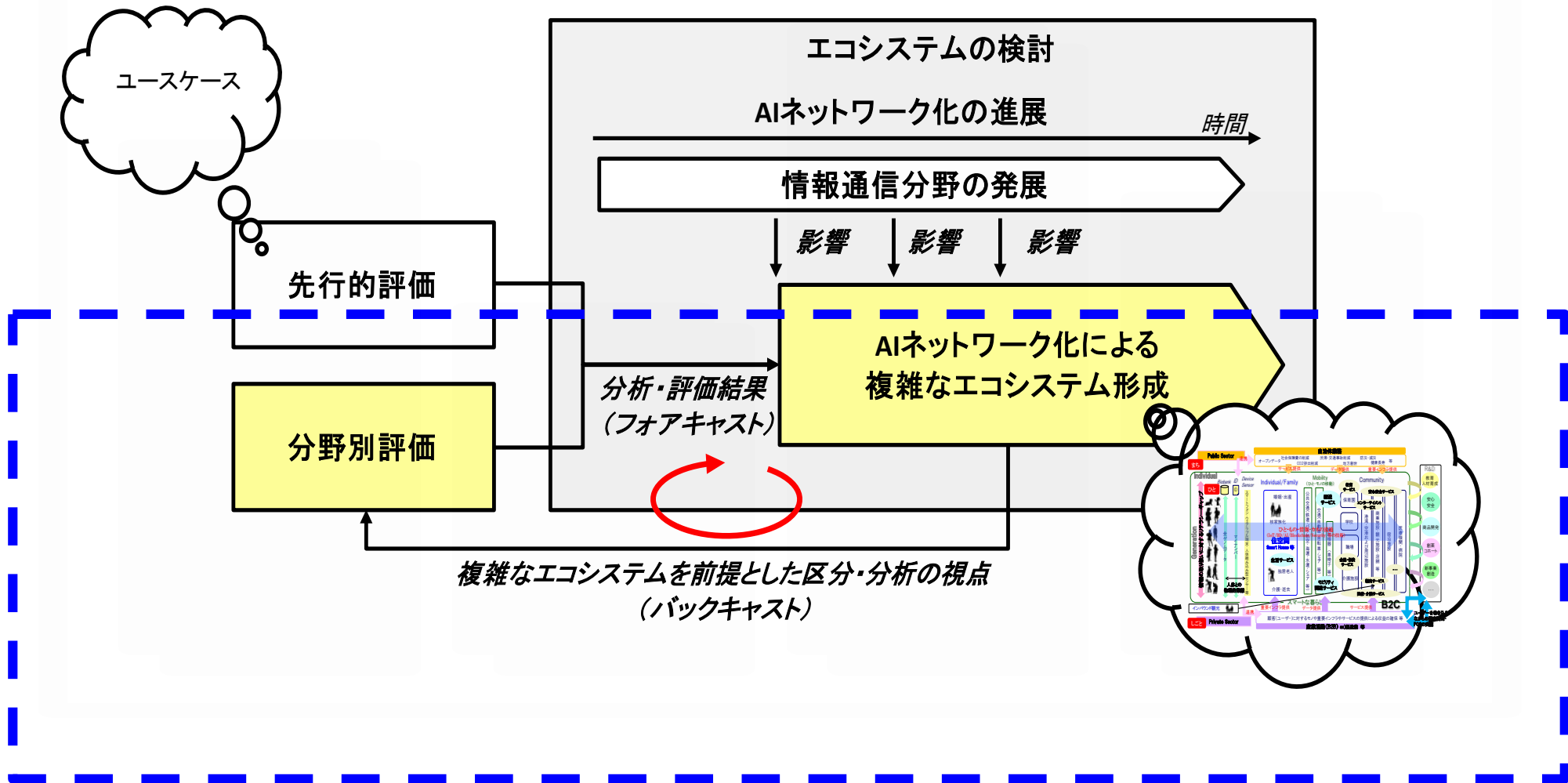
AIネットワーク社会の俯瞰（ヒトの視点を中心に）

AIネットワーク社会（≡複雑なエコシステム）の全体概要図（生活視点を中心に）



分野別評価のアプローチ

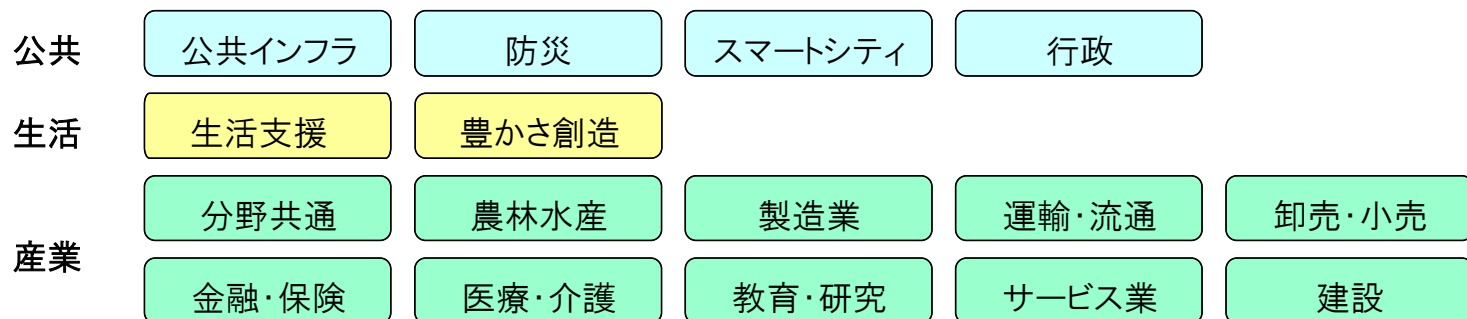
エコシステムが複雑化していくことを前提として、分野の区分の考え方にフォアキャスト的なアプローチとバックキャスト的なアプローチを取り入れて検討。



分野の区分の考え方

「AIネットワーク化検討会議」において影響評価の対象とした分野（＝「領域」）の区分

従来区分（16領域）は、特に産業が詳細化（10領域）されている。



「AIネットワーク社会推進会議」においては、

- AIネットワーク化が主として「利用者」にどのような便益やリスクをもたらし得るのかを重視して、利用者を「個人」、「公共」及び「産業」の3つに区分した上で、「個人」については「生活」、「公共」については「公益」、「産業」について「商流」の視点に着目して分野の区分を設定することとしてはどうか。
- 分野別評価においては、AIネットワーク化の進展により、領域が融合していくことや領域横断的なAIネットワークの利活用が進むことが見込まれることを踏まえて分野の区分を設定することとしてはどうか。
- AIネットワークが社会的なニーズへの対応や課題の解決に貢献するものであることから、社会的ニーズ／課題を踏まえて分野の区分を設定することとしてはどうか。

分野の区分

分野の区分(案)

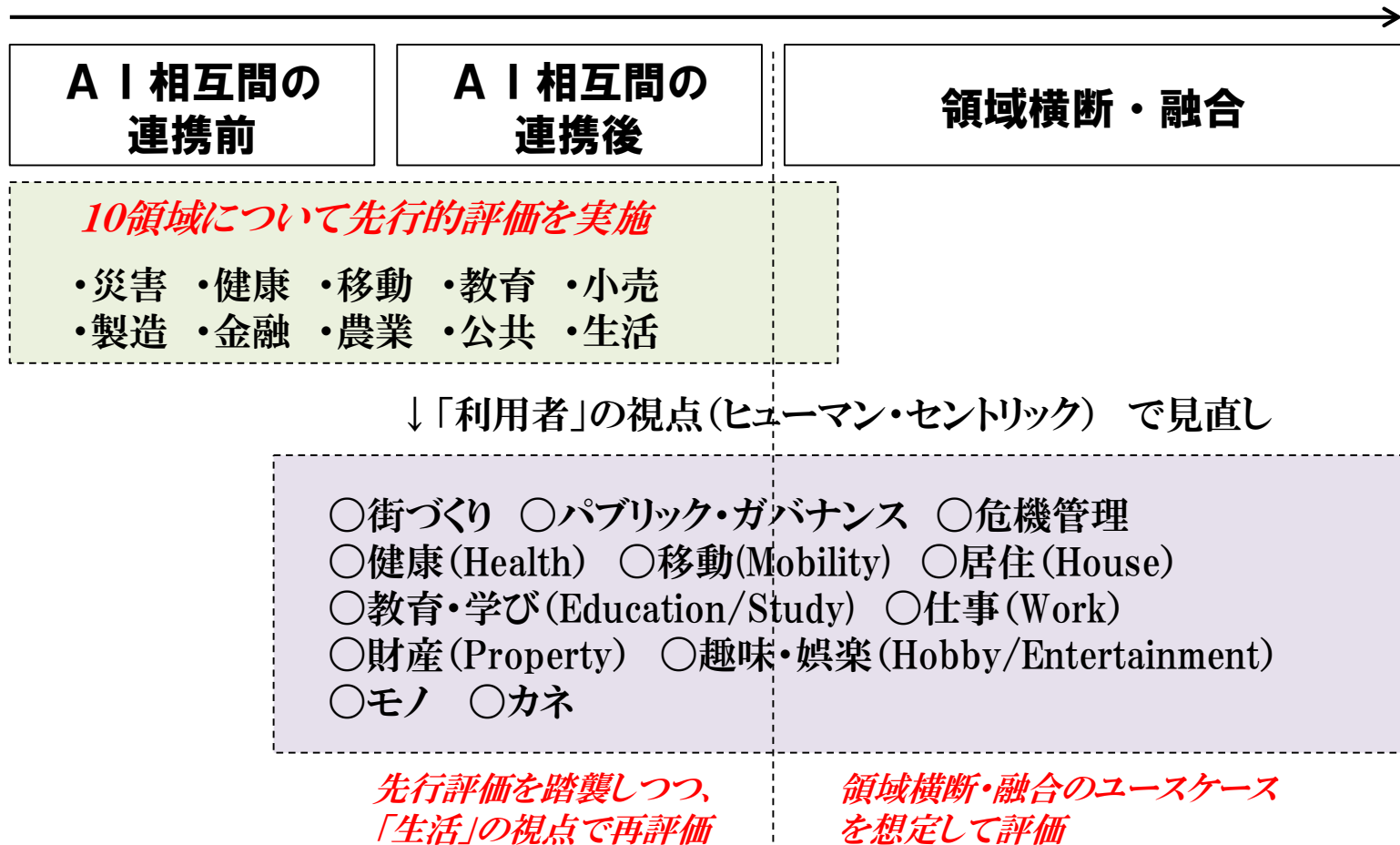
【凡例】 SGDs：国際連合「持続可能な開発のための2030アジェンダ」、G7：G7伊勢志摩首脳宣言、G20：G20杭州サミット首脳宣言、科学：第5期科学技術基本計画、再興：日本再興戦略2016

大分類	中分類	小分類	領域横断の例	主要な社会的ニーズ/課題
公共 (公益)	街づくり		■地域振興や街全体としての情報保有+インフラ・サービス提供 (全産業、産官学)	【共通】 持続可能な都市の構築 (SGDs、G7、G20、科学) 【欧米】 移民・難民問題への対応 (G7、G20)
	パブリック・ガバナンス		■財・サービスの多様化に合わせた税の徴収/政策立案 (全産業)	【共通】 腐敗対策、財政の健全化 (G7、G20) 等
	危機管理		■災害やパンデミック等への対応等における様々な主体の連携 (産官学)	【共通】 レジリエントなインフラ整備 (SGDs、G7、科学)
個人 (生活)	健康(Health)	例えば ■世代軸 ■時系列 (時間軸)	■ゲノム情報や生活情報をもとにしたAIネットワーク化 健康増進、検査・治療 +付随サービス (保険、モビリティ、飲食、サプリ等)	【共通】 健康的な生活の確保・福祉の推進 (SGDs、G7) 【日本】 健康長寿社会の実現 (科学) 等
	教育・学び (Education/ Study)		■ノウハウ・スキル、当人の性格や希望等に関するAIネットワーク化 学校教育、人材研修 +付随サービス (健康、全産業等)	【共通】 生涯学習の機会の促進 (SGDs) 【共通】 知の資産の持続的創出 (科学) 等
	仕事(Work)		■当人の能力・適正・仕事観等に関するAIネットワーク化 ビジネスマッチング、ワークシェア+付随サービス (人脈等)	【共通】 働きがいのある人間らしい仕事の実現 (G20) 【共通】 女性のエンパワメント (SGDs、G7) 等
	財(Property)		■ヒトのライフステージに合わせた様々な財・サービスの提供 (全産業)	※ 各国で異なったニーズ/課題 (以下、日本の場合) 【日本】 年金制度等の改善 (科学) 等
	移動(Mobility)		■ヒトの移動のためのAIネットワーク化 適切な移動手段の提供+付随サービス (観光、旅行、飲食、物流等)	【日本】 少子高齢化時代における交通インフラの構築 (科学) 等
	居住(House)		■住環境を基にしたAIネットワーク化 スマートハウス+付随サービス (小売、物流、警備)	【日本】 既存住宅の活用やリフォームの活性化 (再興) 等
	趣味・娯楽 (Hobby/ Entertainment)		■趣味や娯楽などヒトの心を豊かにするAIネットワーク化 コンテンツ、スポーツ+付随サービス (観光等)	【日本】 文化芸術資源の活用 (再興) 等
産業 (商流)	モノ		■インダストリー4.0やインダストリアル・インターネットによる 産業横断・バリューチェーン横断 (領域融合)	【共通】 生産性の向上 (再興、G7、G20) 【共通】 持続可能な農業・エネルギー供給 (SGDs、G7、G20) 等
	カネ		■フィンテックによる決済・信用データの生成/連携等	【共通】 開かれた強靱な金融システムの構築 (G20) 等

先行的評価と分野別評価

「先行的評価」においては主として領域ごとの評価を実施したことを踏まえ、「分野別評価」においては、領域を横断するユースケースや領域が融合するようなユースケースを想定した評価に注力してはどうか。

また、領域を横断しないユースケースや領域が融合しないようなユースケースについては、「先行的評価」を踏襲しつつ、「利用者」の視点で再評価することとしてはどうか。



評価の枠組み

【領域横断前の段階】

<インパクト評価>

<リスク評価>

シナリオ上想定される利活用	シナリオ上想定されるインパクト	シナリオ上想定されるリスク	リスク評価(例)
	<ul style="list-style-type: none"> ■(開発者・サービス提供者) ■(利用者) 	<ul style="list-style-type: none"> ■(開発者・サービス提供者に起因するリスク) <ul style="list-style-type: none"> ◇主体Aへのリスク/リスクの増減(新規、増加・減少) ◇主体Bへのリスク/リスクの増減(新規、増加・減少) ◇社会へのリスク/リスクの増減(新規、増加・減少) ■(利用者に起因するリスク) ■(起因者が特定できない/開発者・サービス提供者と利用者の双方に起因するリスク) 	

【領域横断後の段階】

<インパクト評価>

<リスク評価>

シナリオ上想定される利活用	シナリオ上想定されるインパクト	シナリオ上想定されるリスク	リスク評価(例)
	<ul style="list-style-type: none"> ■(開発者・サービス提供者(領域A)) ■(開発者・サービス提供者(領域B)) ■(利用者) 	<ul style="list-style-type: none"> ■(開発者・サービス提供者(領域A)に起因するリスク) ■(開発者・サービス提供者(領域B)に起因するリスク) ■(利用者に起因するリスク) ■(起因者が特定できない/開発者・サービス提供者と利用者の双方に起因するリスク) 	

リスク管理(例)	リスク・コミュニケーション(例)